

美唄の柿木 前道議

来夏の参院選に名乗り

連合後援会 役員会で表明 自民党公認候補選考に

【美唄】2016年の前回参院選で落選した自民党の柿木弘前道議(50)は8日夜、ホテルスエヒロで開かれた美唄連合後援会(林晃連合後援会長)の拡大役員会で、来年7月の参院選選挙区(改選数3)に向けた

同党道連の公認候補選考に名乗り出ること正式に表明した。柿木氏は「地方代表の国会議員として道民をサポートする役割を果たしたい」と決意を述べた。拡大役員会には高橋幹夫市長、同党道連副会長の渡辺孝一衆議

院議員(比例代表道プロック)、公明党道本部代表の稲津久衆議(道10区)、自民10区幹事長の村木中道議(岩見沢)、同党美唄支部長の野原道議(美唄)、支持者ら約300人が出席。冒頭あいさつした林



参院選の候補選考への届け出を表明する柿木氏

連合後援会会長は「参院選まで1年を切り、後援会としても公認候補に選ばれるよう早急に推薦状を出したい」と支援を訴えた。高橋市長は「私も柿木さんの支持にまい進する。支援の輪を広げて、後援会も一致団結して柿木さんの背中を押してほしい」と呼びかけた。稲津衆議は「一番大事な政治家の資質を持っている人物。最大のエールを送ると激励。

渡辺衆議は「再度挑戦させたい思いは一つ。10区支部は役員会で決議の前の決議を決定、来るべき参院選に公認を得て10区の重点候補として戦う」とし、「私も(道連選考委員の)29分の1の一人として公認を取るべく援護をしっかりと行うことを約束する」と述べた。村木道議は「共に自民党の党勢拡大に取り組んできた。地方議員四半世紀の実績がある

柿木弘前道議は落選後、全道を3巡したことを報告し、「あらためて北海道を一巡して思いを強く決意した。今回の道内のあいさつ回りを終えた上で判断しようと考えていた。満を持し、今回の自民党道連の候補選考に名乗りを上げさせていたたく決断をした」と表明。「新

北海道の建設に向けて、私自身も生まれ変わり、地方代表の国会議員になって皆様方をサポートする役割を果たさせてほしい」と訴えた。柿木氏は「勝負はこれから。複数の有力な候補者があり、その道内では極めて困難であり大変厳しい状況」として、「私も最後まであきらめず、歯を食いしばって最善を尽くす。再びチャンスを与えていただけるよう心

よりお願い申し上げます」と頭を下げた。道連の候補者選考は道内在任の党员100人の名簿提出などを条件に、立候補希望者を自薦、他薦で募り、8月末に締め切る。9月以降、各種友好団体、青年局、女性局などから聞き取り、全国初のスマートフォン専用サイトを使った投票を実施。これらを参考に10月以降に候補者2人に絞り込む。

【五十嵐悟】